

子どもたちのこと

大橋 利恵子

つっぱりとやさしさと

(T君 5才男児)

話をしている時にクラスの中で一番反応が素早く適切なのはT君である。実行力もあり話し合って決めたことなど、すぐに行動できる。遊びをおもしろくするアイデアや手段もたくさん持っていて、一緒に遊ぶと楽しい相手である。先日も「できるかな」というテレビ番組で牛乳パックを使って家や車を作ることがやっていた。見

終わったT君はさっそく牛乳パックを集めてきてつなぎ始め、数日かかって床と屋根と柱だけのものを作った。その頃、ちょうど周囲の子どもはじゅず玉を糸に通しネックレスを作っていた。たくさんできたネックレスを見てくじびきをしようということになり、準備に追われていた。くじびきの場が出来て、お客様になった子たちがはじめると、そのすみの方で何やら時々笑い声をするようになった。そばに行ってみると、T君がその床と屋根だけの家の中にすわりこみ、片手をあげ、片手を前に出

してしかめつつらをしている。そして、女の子たちが前でポンポンと手をあわせている。どうやらお地蔵様のまねらしい。へんな遊びだなと思って見ていると、何とお地蔵様が、女の子がやるのと同じようにポンポンと手を打つのである。ほったに手をやればお地蔵様も、ほったに手をやる。そのたびにみんながきゅきゅと笑っているのである。「先生このお地蔵様おもしろいよ。まねするからまねっこ地蔵なんだって」おまけにまねっこしてほしい人はちゃんとおさい銭を入れなくてはならないようになっていた。

T君にはこのように人がおもしろいような事を考へ出す所があるので周囲もついついT君の言う事を聞く方にまわる。その為かT君はいつもクラスの中でいばっている。けんかをしたらたいして強くないのに口が達者なのでみんなかなわない。そんなT君にも弱味はある。スポーツである。あまり得意ではないのでやりたがらない。その中でもプール遊びは特に苦手だった。今年ががんばって泳げた子に赤や緑のボタンを渡した。そういう

時には一番上のものを欲しがるT君である。口だけはいさましく「ぼくは緑ボタンをもらうぞ」と言っているが、顔を水につけるのが大きすぎ。それでもT君は泳げないと言われるのはプライドが許さないのか、毎日少しずつがんばり、夏休み前には赤ボタンまでこぎつけていた。

この頼もしいT君が調子にのって人の悪口や反抗的な口の聞き方をするのに一時すごく困ったことがある。でもある日ふとおもしろい関係に気づいた。T君はえらぶっているけれど本当はすごく甘えん坊で、一日に一回はひざや肩に乗っかりに来る。そういうった甘えがスムーズにできた日は彼の口はおとなしく、どうも不安定な時の口の悪さはかなりひどいことに気づいたのである。どうやらT君はかなりのつっぱりらしい。それ以来、彼が悪口や反抗を始めたなら、頭ごとかかえてしっかりと抱いてしまふことにしている。

また、園ではあまりみせないT君のやさしい姿をお母さんの手紙から知らされた。

「幼稚園に行っている間にとても残念な出来事があつたと子どもに話した。

死んでしまった二羽の小鳥と対面した時、齒をくいしばっていたが、家に入り部屋の隅で顔をうずめて泣いていた。庭に穴を掘り、小鳥を埋める時は、彼の目から大粒の涙が溢れ、夕飯を食べる元気もなくなつてしまつた。」

T君の心の中にあるこのやさしさは宝物、そして本当は甘えの強いT君が肩いからせているのをみるたび、何かほえましいものを感じずにはいられない。あの子は何でもできるいばつた子だという片方の見方をして、ますます、T君をつっぱらせてしまつていたら……と思うと、T君のもう一方の姿や心の中を少しでも見つけられよかつたと思わずにいられない。

(岐阜北幼稚園)

